

学際的視点に立った 建築と都市の総合デザイン学を開拓

専門知識と先端技術をベースに、学際的視点による建築と都市の総合デザイン学を追究します。建築デザイン、建築・都市史、建築構造、建築環境、建築構法、という5つの分野をバランス良く網羅しています。学部からの進学率が高く、さらに他大からの入学者が多いのも特徴の一つ。規模と実績のある専攻として、長年にわたり多くの人材を社会に送り出しています。また2013年度には、UIA（国際建築家連合）の求める5～6年間の一貫した建築教育に対応したJABEE（日本技術者教育認定機構）建築系学士修士課程の認定を受けました。

本専攻では、建築と都市に関わる専門職業人（建築家・建築技術者）、教育者・指導者、研究者を養成するため、次の7項目の学習・教育到達目標を掲げています。

1. 総合デザイン(HolisticDesign)力、2. 建築・都市に関する歴史・文化的知見、3. 持続可能な社会を目指す職業倫理、4. 安心・安全・快適を実現する専門技術、5. 技術と芸術を統合する視点、6. 高度なIT能力、7. 國際的なコミュニケーション能力。

アドミッション・ポリシー
(学生受け入れ方針)

専門分野に特化した人材、キャリア形成による幅広い人材の育成と、社会人のリカレント教育を重視。これらに対応して修士課程に3コースを設け、それぞれに相応しい人材を受け入れる。1.選抜1年コース(実績・リカレント対応)、2.総合2年コース(筆記重視型・作品評価型の両入試方式による専門特化)、3.キャリア3年コース(非建築系卒業者対応)。博士後期課程では学位論文作成に必要な語学力と専門能力を有する適切な人材を受け入れる。

カリキュラム・ポリシー
(教育課程の編成・実施方針)

学生が自ら問題を見いだし、解決策を探求、創造できるよう、以下のコースとカリキュラムを編成。1.学部・大学院の教育一貫性(学部生先取り履修、大学院生学部履修、学部・大学院科目の連番配当)、2.修士3コースに2系のカリキュラム(技術者・研究者養成のラボ系、建築デザイナー養成のスタジオ系)、3.アーキテクトマインドを育む充実したデザインスタジオ教育、4.豊富な学内外実習科目、5.自主的活動に対する単位認定、6.博士にコースワーク設定、7.成績評価の公正化・公開制、8.海外交換プログラム。

ディプロマ・ポリシー
(学位授与の方針)

研究室紹介

赤松 佳珠子 教授

建築や都市空間をさまざまな要素を通して捉え、新しい時代に向けての建築空間の在り方をさぐります



建築や都市空間をアクティビティ・光・風・音など、さまざまな要素を通して捉えます

建築空間は、人々の活動を支えると同時に、さまざまな行為を誘発する場でもあります。建築の内外を取り巻く環境や空間をアクティビティ(人々の活動)・時間・光・風・音など、さまざまなフルード(流動的要素)を通して捉えます。建築とは「もの」から生まれる「こと」と「ひと」との関係を考えること。建築とは「もの」ではなく、「出来事である」という考え方をベースにさまざまな研究や活動を行っていますが、学生たち自身がどのように建築や社会と関わっていくのか。何をテーマに具体化していくのか。学生自らが主体となってさまざまな課題を設定し取り組んでいます。

*本専攻には、このほかに建築デザイン、建築構造、建築環境、建築構法などの分野を扱う、全部で12の研究室があります。

修士課程

- 建築計画学概論(2)
- 近現代デザイン概論(2)
- 環境工学概論(2)
- 景観デザイン概論(2)
- 地域・都市再生概論(2)
- 環境技術英語(2)
- 知的財産権論(2)
- 現代産業論(2)
- 海外研修プログラム1(3)
- 海外研修プログラム2(3)
- 設備計画概論(2)
- 建築史概論(2)
- 地盤工学概論(2)
- 鉄筋コンクリート構造概論(2)
- 建築構造力学特論(2)
- 曲面構造特論(2)
- 構造解析特論(2)
- 特殊環境特論(2)
- 建築設備特論(2)
- 都市解説方法特論(2)
- 建築設計特論(2)
- 建築思潮特論(2)
- 空間解析特論(2)
- 住宅計画特論(2)
- 都市形成史特論(2)
- デザインスタジオ8～11(各6)
- デザインスタジオX(2)
- 建築プロフェッショナル総合演習1/2(各4)
- 建築インターンシップ(8)
- 建築構造デザイン(4)
- 建築学修士研修1/2(各2)
- 建築学修士プロジェクト1/2(各3)
- 特別研究(2)

博士後期課程

- 建築構造分野研究論考(2)
- 建築環境分野研究論考(2)
- 建築計画分野研究論考(2)
- 建築史分野研究論考(2)
- 建築学博士研修1/2(各2)
- 建築学博士研修3(3)
- 建築学博士プロジェクト1/2(各2)
- 建築学博士プロジェクト3(3)

*この他に、修士課程キャリア3年コースに学部合併科目20科目を設置。

*デザインスタジオ11：飯田善彦大学院客員教授が主に担当する修士設計のためのスタジオ系科目。

[2018年度]※開講科目は年度により異なります。()=単位数

学生・修了生の声

櫻井 花子

修士課程 2016年度修了



学校という一つの建築だけでなく、地域や街を含めた広い視野で携わっていきたい

大学院の魅力

先生や学生同士の距離が近く、いつでも相談し、議論し合える環境があります。研究室という枠組みの中だけでなく、研究科全体でこのような連携が取れていることが魅力だと思います。また、大学院では授業がより専門的になり、外部からも建築家や専門家の方々が授業に来てくださいます。さまざまな刺激を受けながら学ぶことができる場が大学院にはあり、進学して良かったと思っています。

将来の目標

私は将来、設計を通して学校建築に携わっていきたいと思っています。学校には生徒だけでなく、先生や保護者の方々、地域の方々などさまざまな人が関わり、学校が街の中では一つの拠点になります。学校という一つの建築を考えただけでなく、地域や街、さらに広い視野を持ちながらより良い居場所を考えられるように大学院で深く学んでいきたいと考えています。

研究テーマ 学校と地域をつなぐ子どもの居場所空間